



©今井修

# 地域づくりGIS —地域資源を活かす—

平成26年4月  
今井 修 (有)ジーリサーチ代表取締役  
東京大学空間情報科学研究センター客員研究員  
島根県中山間地域研究センター客員研究員  
総務省地域力創造アドバイザー

©今井修

## 1. 地域づくりにおけるGISの役割



出典：第17回全国児童生徒地図優秀作品展 受賞作品(国土地理院) 審査員特別賞・兵庫県赤穂市立御崎小学校6年松本 彩希、塚本 安紀

©今井修

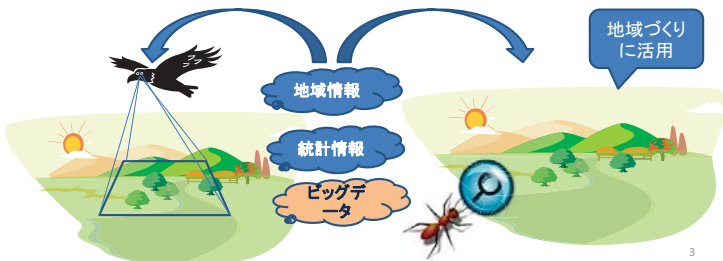
## 地域資源活用に向けた2つの分析法

### 鳥瞰分析

- 広い範囲から条件を設定し、最適な場所を見つける
- 例：空間統計学を利用した出店計画、避難所配置検討

### 虫瞰分析

- 狭い範囲を詳しく分析する。例えば原因と思われる情報、**時刻**を集め詳細に探求する
- 例：事故、災害の分析



©今井修

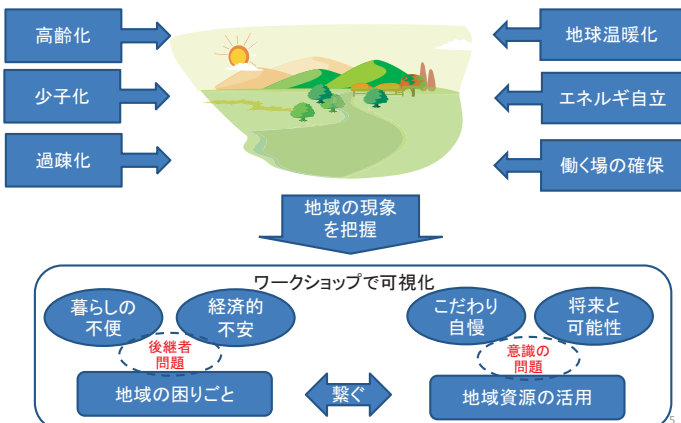
## 地域づくりの実現に向けたGISの役割

ファシリテーションが必要

手順	内容	GISの使い方	
課題の共有	ワークショップ(KJ法) 地元学による可視化	既存情報の可視化 地域資源の可視化	マクロ 鳥瞰
対策の検討	ステイクホルダーによる対策の検討	ニーズの検討と順位	マクロ 鳥瞰
対策の組立	個別ハードとソフト(組織)の対策実現	ソフト対策・情報整備	ミクロ 虫瞰
サービス提供	社会システム(ハード/ソフト)として運用	提供サービスの記録 利用者の声を可視化	ミクロ 虫瞰

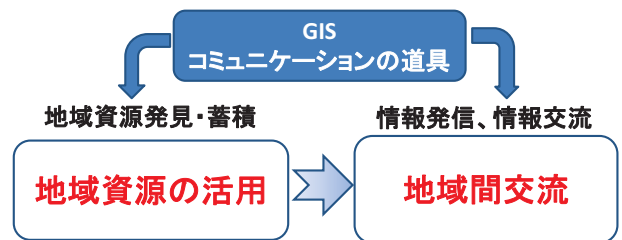
©今井修

## まず、課題の認識と共有

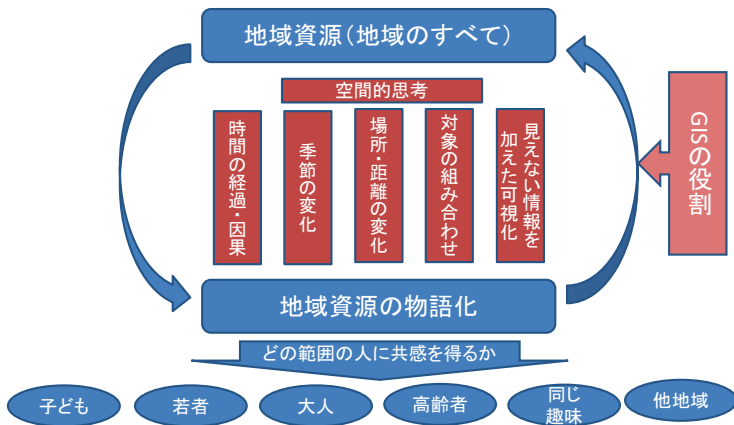


©今井修

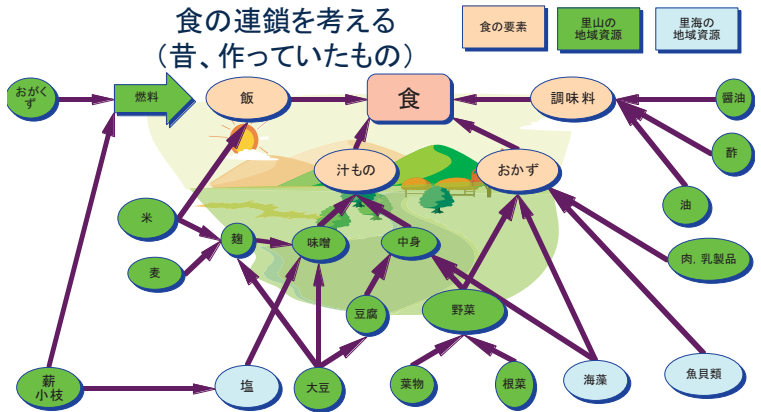
## 地域資源活用の第1歩



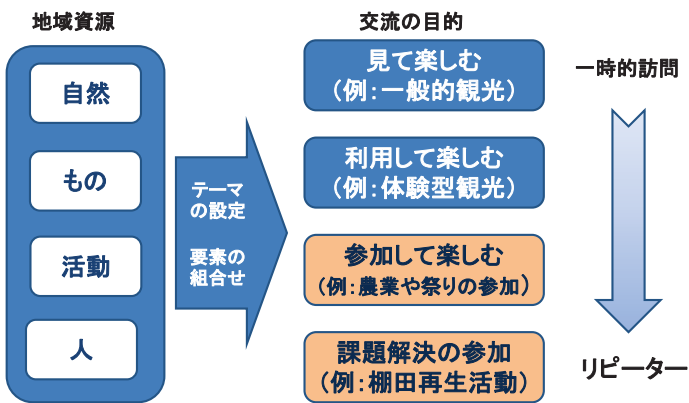
## 2. 地域資源を活かす方法



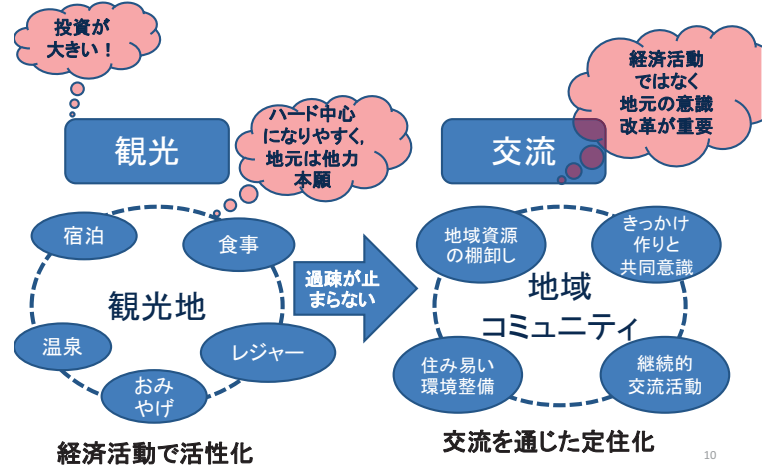
## 例) 食から考える地域資源の連環



## 3. 交流活動の種類と設計



## 参考) 地域資源活用に対する仮説



## 参考) 交流に対する効果

### ■ 都市農村交流と地域づくり二つのルート

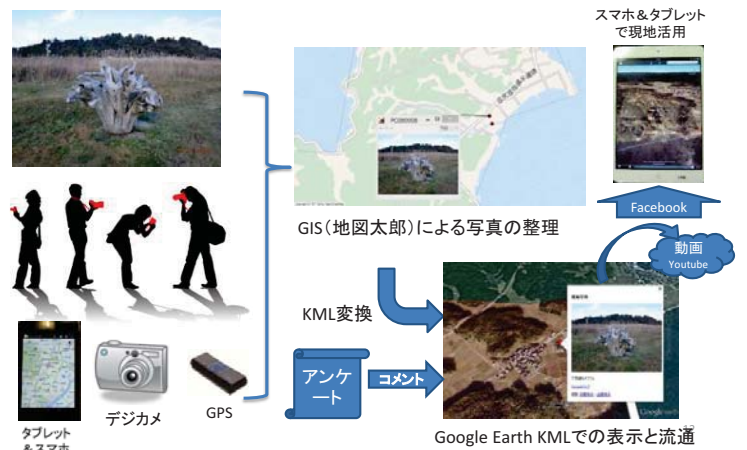
#### 1) 交流の鏡効果→「暮らしのものをさしづくり」

- ・都市住民が「鏡」=農村の「宝」を写し出す
- 農村サイド(ホスト)の再評価

#### 2) 交流産業→「カネとその循環づくり」

- ・ホストとゲストの「学び合い」が付加価値
- 高いリピーター率=成長産業の可能性
- ⇒地域づくりの「交流循環」
- ・上記を通じて、「新しい価値」の更なる上乗せ

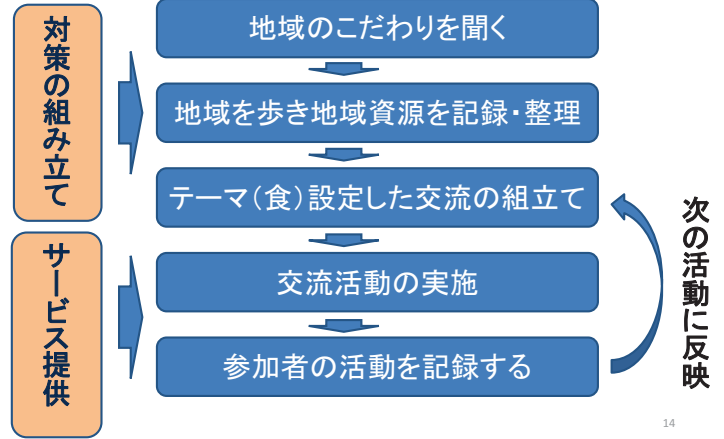
## 4. 活動成果にGISの活用による効果



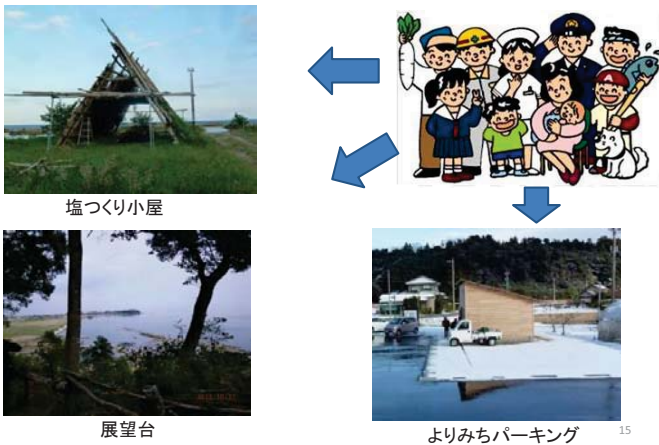
### 5. 石川県七尾市能登島長崎の活動



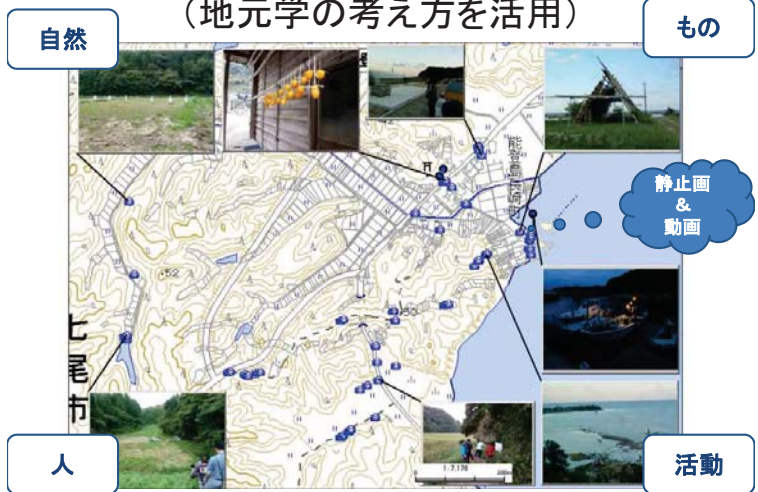
### 交流の組み立てとサービス提供の進め方



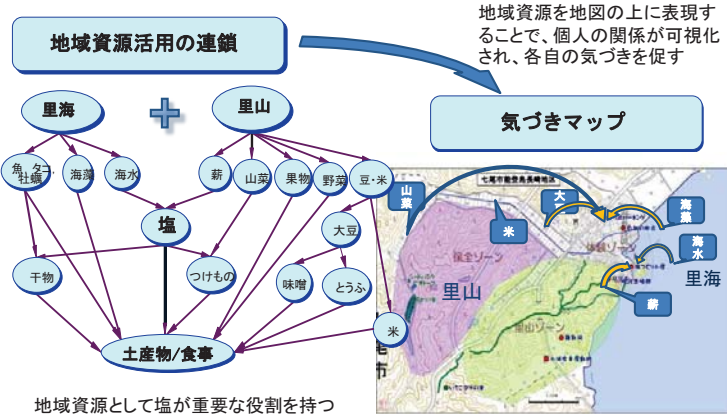
### 地域のこだわりを聞く



### 地域を歩き地域資源を記録 (地元学の考え方を活用)

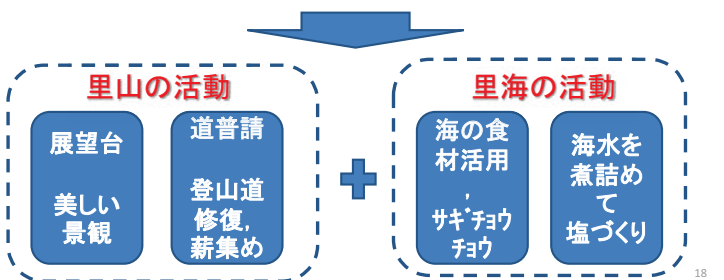


### 地域資源の連鎖と全員の参加へ



### 地元による初めての交流活動の組み立て

- サギチョウチョウの復活(どんと祭り)
  - 子どもの頃の楽しい思い出
- 地元のこだわり
  - 塩作り小屋, 船小屋
  - 展望台





©今井修  
前日地元紙で取り上げてもらう



19



©今井修  
交流活動の新聞記事(1月20日)

## 初めての交流活動の反応

©今井修

### 地元の気持ち

1. 参加者に喜んでもらえて良かった
2. 新聞で周知してもらい、七尾市の子供も参加してくれて良かった
3. 手伝いに参加したが、とても楽しいことがわかった
4. 船小屋で食事を出したりしたが、外のアクティビティに参加する人が少なくなった

### 参加者の気持ち

1. 楽しい活動だった
2. 最初に展望台に行き全体が判ってよかった
3. 道普請が予想以上に楽しかった
4. 途中の山道がとても良かった
5. もっと地元の人と話しをしたかった
6. 塩煎りの場面など、ゆったりした時間が、とても良かった

©今井修

©今井修

## 6. この仕組みの特徴

1. 地域資源をGISのデータにする
  - 情報を簡単に加工
  - 他分野の利用へ簡単に対応
2. ツールの特徴
  - 誰でもできる = 安価・簡単に情報作成(人材育成)
  - データ量が少ない位置情報(KMZの利用)
  - グループの情報共有(Facebookの利用)へ
3. スマホ・タブレットにこだわる
  - 現地の動画情報を扱う
    - ・ 紙情報に比べ、圧倒的に多い情報を扱う
    - ・ 感覚、記憶を呼び戻す→リピータを促す
  - 現地で周りの情報を知る
    - ・ 異なる季節の情報を得る(夏の風景、冬の風景)
    - ・ 現地ガイドの支援(多言語対応等)が可能
    - ・ 鳥瞰的感覚と現地の感覚を結びつける

23

## 7. 地域資源の活用

- 交流活動の展開
  - フットパス、エコツアー、グリーンツーリズム
- 他の地域課題への展開
  - 防災分野(安心・安全分野)
  - 福祉分野
  - 市民参加のまちづくり
- 地域の経済活動の支援
  - 中山間地域
    - ・ 集落営農
    - ・ 間伐材活用ネットワーク(木の駅)
  - 地方都市
    - ・ 商店街の活性化

24

# 交流活動の展開

## フットパス

イギリスにおけるフットパス整備は、人々の生活を通して自然発生した小径(こみち)を、たとえそれが私有地の中であっても、一定のルールのもとに、通行する権利を獲得しようという運動が始まりました。

一方で、私たち日本のフットパス整備は、まず自らの暮らす地域において、個性豊かに育まれてきた文化・歴史・産業・景観等の資源を、地域の魅力として再認識することからはじまります。



出典：日本フットパス協会 (<http://www.japan-footpath.jp/>)

## エコツーリズム グリーンツーリズム

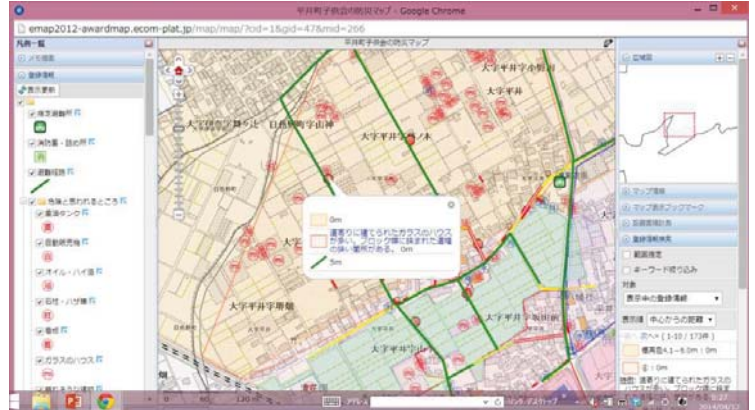
地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、資源の保護+観光業の成立+地域振興の融合をめざす観光の考え方です。

地域への関心を深く理解を高めてもらう手段として、プログラムがつくられ、地域・自然・文化と旅行者の仲介者(インタープリテーション)の能力を持ったガイドが存在します。



出典：日本エコツーリズム協会

# 防災分野への活用



出典：第3回e防災マップコンテスト(防災科研)平井町子供会の防災マップ  
<http://bosai-contest.jp/emap2012group-award/index.php?gid=10238>

## 4 地域資源マップの特徴(まとめ)

	練馬区	多摩市	かたらい
作成主体	区	市	民間(グループホーム)
タイトル(規格)	「高齢者のお役立ち情報」(A4形 35ページ)	「高齢者暮らしの応援」(A5大見開きファイル型)	「あんしん生活マップ」(4つ折/パンフレット・展開時A3形)
内容	認知症の人と家族が困ったことや、知りたいことがあった時に利用できる情報別のガイドブック的な編集。	本体には公的な地域資源(地域包括支援センター等)の地図を中心に掲載。中に短冊形の地区毎の取組状況やサービス情報を差し込んで、地域ごとに活用できるように工夫。	「商店街の商店マップ」の位置づけで検討し、マップと併せて協力店シール(「しんせつマーク」シール)を作成。
配布方法	モデル地区内8箇所(地域包括支援センター他)に設置し配布。	民生委員、地域包括支援センター等の支援者が配布。	民生委員、地域包括支援センター等の支援者が配布するほか、商店街で配布。
特徴	マップ自体に「ネットワークづくりのツール」としての効果がみられた。実例を挙げて内容を検討することで、役に立つ地域資源を具体的に知ることにつながる。	マップは、ただ配るだけでなく支援者が地域に働きかけるためのツールとしたいというコンセプトで作成。(地域包括支援センターごとの)地域性のある情報を盛り込む形式にしている。	作成前に、認知症の人と家族、地域包括支援センター等に商店街に関するアンケートをとり、商店街理事会の協力を呼びかけるきっかけとなった。

出典：認知症の人と家族を支える地域づくりの手引き(H22.3東京都)<sup>27</sup>

# 木の駅プロジェクト



出典：木の駅プロジェクト(<http://kinoeki.org/>)